



発達障害児支援教育のプロ  
嶺井 ゆかり

約30年の経験を持つ元小学校教員。学校教育の現場で特別支援教育に携わることが継続的な教育支援の難しさに悩み、「子どもの発達に寄り添う伴走型の教育がしたい」と、2019年3月に早期退職。《発達凸凹っ子のジリツと学ぶ力を育てる個別指導塾ティートリー》を立ち上げ、6年目を迎える。現在は、教育・医療・福祉の専門家スタッフと共にオリジナルメソッドを展開中。沖縄県在住。



障害者雇用支援のプロ  
宇野 京子

一般社団法人職業リハビリテーション協会理事。平成17年度内閣府バリアフリー化推進功労者表彰特命担当大臣賞受賞。現在は、ジョブコーチとしてハローワーク岡山に勤務し、岡山県庁で職場定着支援トータルアドバイザーとして稼働。2023年に書籍『発達障害児者の“働く”を支える—保護者・専門家によるライフ・キャリア支援—』の編著者を務める。岡山県在住。



組織人材トレーニングのプロ  
星山 裕子

一般社団法人才能開発支援機構 代表理事、株式会社Kronika 代表取締役。新規事業開発、経営コンサル、次世代幹部育成などの側面から数多くのベンチャー企業・上場企業の成長を牽引。面談数は65,000人超、取引社数は850社を超える。生まれ持った才能と経験を特定するTalent Focus®を開発し、人それぞれの持つ才能の開花を支援している。東京都在住。

## Message 「親が将来への見通しを持てれば、子どもの人生は輝く」



職業から、発達障害のある児童の保護者から「勉強ができなくても、社会に出て、やっていけるでしょうか」と質問されることが多いです。世の中の状況はどんどん変わってゆくのにも、親も教師もいまだに「学歴」という限られた古い価値観でしか未来を描けないという閉塞的な状況に危機感を感じます。いまの社会で必要とされるのは、正解のない世界で、最適解を見つける力。つまり、「問題を解決するためにどのように行動するのか」「自分が社会のために役に立てる力は何なのか」ということだったりします。いま私たちが子どもたちに向き合っているサポートは、ほんとうに、そのゴールに有効に繋がっているでしょうか。

たくさんの情報があるにも関わらず大切なことを知らなかったり、見落とししていたりすることがあるかもしれません。この講演会はまさに、私たちの認識をアップデートする絶好の機会です。

ウェルビーイング(Well-being)は、well(よい)とbeing(状態)からなる言葉。子ども自身が積極的にWell-beingな生き方を選べる未来にするために。学齢期の発達凸凹っ子に求められる教育、将来の働き方についての支援という観点で、きょうからさっそくできることを共有してまいります。専門家から学んで、これからの未来を変えてゆく「はじめの一歩」をご一緒に踏み出しましょう。(実行委員長 嶺井ゆかり)

【主催】花咲く子どもプロジェクト2024実行委員会

【後援】一般社団法人沖縄県PTA連合会/沖縄県中小企業家同友会/神戸大学大学院人間発達環境学研究科/障害者就業・生活支援センターブリッジ/しらかわこども園/のびる保育園/発達神経クリニックプロップ(五十音順)

■花咲く子どもプロジェクト2024実行委員会■

実行委員長 嶺井 ゆかり

(個別指導塾ティートリー代表)

実行委員メンバー

沖縄県 棚原 歩美(有限会社友誠 代表取締役社長)、照屋 なつき(言語聴覚士)、新里 みつき(ピアサポート/発達障害児の母)、平良 勝朗(看護師/精神科勤務)、嶺井 国博(看護師/精神科勤務)、砂川 泉美(支援者/元中学校教員)

東京都 姉崎 瞳(コールセンター管理職)

兵庫県 春名 正基(コーチングオフィスRay代表) 順不同

## ウェルビーイングとは

「ウェルビーイング」(well-being)とは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、「幸福」と翻訳されることも多い言葉です。世界保健機関(WHO)憲章の前文では、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態(well-being)にあることをいいます(日本WHO協会:訳)」とされています。



公式Instagram



公式YouTube

花咲く子どもプロジェクト 2024 実行委員会